

資料 5 - 3 - 1

高知県中央東福祉保健所における保健医療福祉の連携に係る取り組み

(管内 7 市町村、南国市、香南市、香美市、本山町、大豊町、土佐町、大川村  
人口約 1 2 万 6 千人)

■生活習慣病予防に関する保健医療連携

香南市（人口 3 万 4 千人）と連携協働して高血圧と喫煙の 2 大リスクに重点を置いた生活習慣病予防対策を地元医師会を巻き込んで実施している。特定健診保健指導等による高血圧対策に関しては香南市が主体になり保健所が支援するとともに、喫煙対策については、保健所が主体になって香南市と連携することで両者が重層的に連携して取り組みを進めている。

保健所の主な役割は、基本指針の中の「情報の整理、収集及び活用の推進」、「調査及び研究等の推進」、「企画及び調整の機能の強化」の 3 点に集約され、健康増進法実施要領に基づく役割を發揮している。

(注) 健康増進法実施要領

都道府県保健所は、市町村が地域特性等を踏まえて健康増進事業を円滑かつ効果的に実施できるよう、必要な助言、技術的支援、連絡調整及び健康指標その他の保健医療情報の収集及び提供を行い、必要に応じ健康増進事業についての評価を行うことが望ましい。

●香南市の高血圧対策に関する具体の取り組み

1) 生活習慣病対策として重点的に取り組むターゲット（疾病やリスク）を明確化

- ・死亡統計、医療費、介護給付費等のデータを分析して香南市に提供し、香南市におけるエンドポイントの最重点課題が脳卒中であることを明確化した
- ・香南市からの依頼で健診データと国保レセプトデータの突合分析を行い、その結果から医師会との連携による受療中のハイリスク者対策が重要であることを明確化し助言した
- ・全国のコホート研究の成果から、脳卒中予防のための寄与危険度割合に関する情報を収集し、高血圧と喫煙の 2 大リスクに重点を絞る必要性についての科学的な根拠を提供した

2) 高血圧対策における効果的な介入方法に関する情報提供と助言

- ・高知医大の高血圧に関する専門医師を香南市につなぎ、市保健師の勉強会を実施。家庭血圧の測定と記録をポピュレーション対策として推進し、その記録を医師会と連携して要治療者の血圧管理に有効活用することについて助言した
- ・健診受診者に対する自動血圧計の保有と活用状況に関するアンケート調査を市保健師とともに企画実施し、その集計分析を支援した
- ・市の要請を受けて自動血圧計の保有活用状況と健診データとの突合分析を行い、医師会代表を交えた専門部会でその分析結果を報告。家庭血圧測定の普及と学会ガイドラインに基づく高血圧者の服薬管理に活かすことについて合意形成した

### 3) 香南市内の組織横断的な体制整備の支援

- ・香南市長に上述した疫学データを説明し、メタボ対策に偏らない香南市の実態に即した対策を行うことと、課を超えた組織横断的な推進体制をつくることについて助言し基本的な了解を得た
- ・健康づくり推進委員会の設置にあたって、健康対策課だけではなく、国保と介護保険の担当課、福祉事務所も一緒になった推進体制を整えられるよう側面的に支援した

### 4) 脳卒中予防対策に関する具体の行動計画の策定に関する助言

- ・市の保健師と協働して、医師会、住民組織団体、行政（香南市、保健所）が、それぞれ具体的に何を実行するのかを明示した施策体系表としての行動計画を作成した
- ・対策の評価については、評価指標の設定と評価指標の収集に関する役割分担についても明確化し行動計画の中に盛り込んだ
- ・その行動計画を市の健康づくり推進委員会で組織的に確認して取り組みを進めている

### 5) 地元医師会を巻き込んだ対策の推進

- ・特定健診・保健指導を開始する前は、高知県では集団健診だけで医療機関による個別健診がなかった。そこで、県全体の動きと調和しながら、地元医師会からの要請を受けて個別健診に参入する医療機関対象の勉強会を企画して医師会による受け皿整備を支援した
- ・保健所長が医師会長に香南市における生活習慣病の課題と対策について説明し、医師会による全面協力についての了解を得た
- ・その上で、保健所がコーディネートして香南市の健康づくり推進委員会に医師会代表を入れ、医師会代表3名と高知医大の専門医と保健所長で構成する専門部会を設けた
- ・市保健師に、臨床医との連携に関するコツを教え、医師会代表と保健師の間の意思疎通がスムーズになるように支援した
- ・その中で保健師による健診後の指導と医療機関の対応がズレから受診者が混乱していることの問題を医師会と共有でき両者のズレを少なくすることを目的に対応基準を作成した
- ・香南市長、医師会長、保健所長の連名の医療機関向け文書を作成し、保健師が全医療機関を個別に訪問して医師と意見交換することにより、両者の意思疎通が進みだした

## ●喫煙対策に関する具体の取り組み

喫煙対策については、防煙、受動喫煙防止、禁煙支援の3本柱とする対策を管内全体（人口12万6千人）を対象に保健所主導で実施している。香南市においては、喫煙対策が市の行動計画の中に盛り込まれており、保健所と香南市が重層的に連携して禁煙支援を行っている。（以下は、禁煙支援に絞って記述）

### 1) 保健所設置の「健康づくり推進協議会」で喫煙対策を最重点に取り組むことを確認

管内の2つの医師会の会長と保健所長が協議し、喫煙対策を最重点に取り組むことを確

認した上で、医師会、市町村等の役割分担を記載した行動計画を策定。医師会は、禁煙外来を増やし、治療中の喫煙者を積極的に禁煙治療に結びつけること、市町村は、特定健診受診者の中の喫煙者の禁煙外来への受診勧奨を行うことを確認。

#### 2) 禁煙支援に関する医療機関の実態調査

- ・医師会の協力を得て禁煙外来実施医療機関に禁煙外来の実施状況調査を行うとともに、未実施医療機関には禁煙外来開設の意向と禁煙外来への受診勧奨の協力についての調査を行い、多くの医療機関が協力いただけることを確認。

- ・歯科診療所、調剤薬局についても、禁煙外来への受診勧奨の協力についての調査を実施し、多くの機関が協力いただけることを確認。

#### 3) 禁煙外来受診勧奨用のチラシを6千枚印刷して医療機関等に配布を依頼

- ・一般医療機関、歯科診療所、調剤薬局、市町村にチラシを6千枚配布し、患者等への受診勧奨を依頼。既に、在庫がなくなり、追加印刷して配布の準備中

- ・香南市は、特定健診受診者の同チラシを配布するなどして、喫煙者に禁煙治療の勧奨を行っている。既に、健診受診者の中で禁煙した者が増えてきたとの感触を得ており、近々、健診データを分析評価する予定

#### 4) 医師会との連携による禁煙外来の増加と医療従事者の資質向上

- ・対策開始前は、管内全体で6つの禁煙外来が、現在は14まで増加。(香南市は、0から4つまで増加)

- ・調査済みの10の禁煙外来で過去1年間に約300名が受診し6割が禁煙を成功。

- ・禁煙外来の従事者の資質向上については、2つの医師会主催で研修会を3回実施。(保健所は共催だが、実質的には事務局として機能、県内の禁煙治療研究会の支援を得るための調整も実施)

## ■地域包括ケアにおける保健所の役割

全国一の療養病床を有する中、医療制度改革による療養病床の再編見直しが打ち出されたことを受けて、高知県では、2計画1構想（医療計画に基づく地域連携パスと在宅医療の推進、地域ケア体制整備構想に基づく地域ケア体制の整備、よさこい健康プラン（健康増進計画）に基づく健康づくりの推進）を推進するため、県保健所単位に保健医療福祉推進会議を設置し、地域包括ケア体制の整備を推進している。

## ●保健医療福祉推進会議による地域包括ケアの推進

1) 保健医療福祉推進会議の設置と関係組織団体の主語を明確にした行動計画の策定

・中央東福祉保健所では、地域特性の違いから、北部山間4町村と南部平野部3市に分けて同会議を設置して、保健医療福祉の連携による地域包括ケア体制の整備を推進している。

（以下は、3市の推進会議の取り組みに限定して記述）

・推進会議は、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、ケアマネ協議会、福祉事務所、3市高齢者担当課長、民生委員協議会等の組織団体のトップと住民代表等で構成。（ケアマネ協議会は、未設置であったため、保健所が組織の設立を側面的に支援）

・毎年、各組織団体の主語を明確にして、前年度に実施した活動実績と当該年度の行動計画を作成し、A4の見開き4ページに要約したリーフレットにも加工し、各組織団体の中でも情報共有している

2) 関係機関等の実態調査の実施と推進会議での情報共有

・長期入院事例、在宅復帰事例の調査、訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所の実態調査などの実態調査を行い、推進会議で課題を共有

・ケアマネの医療機関アクセスを支援するため、医療機関の在宅医療機能とアクセス方法を記載した一覧表を作成。毎年、保健所で情報更新をしている。

## ●地域包括ケア体制の整備と保健所が果たした役割

1) 県の地域ケア体制整備の補助金を活用した医師会との連携

・保健所長が、土佐長岡郡医師会の会長、副会長と協議。土佐長岡郡医師会が県の地域ケア体制整備のための補助金（在宅復帰支援システム検討事業）を受け、南国市において医師会主導による地域包括ケア体制の整備の取り組みが進んでいる。

・同補助金を用いた医師会の取り組みに当たっては、保健所が事務局的（黒子的）な役割を果たし、尾道市医師会長による講演、尾道市等の地域包括ケア先進地への視察団（地域ケアを担当する多職種のキーマンで構成）の編成と視察、多職種連携のための研修会や事例検討会等の企画や事務処理を支援してきた。

・2年間の補助事業が終了した後は、土佐長岡郡医師会による自主事業として定着化。多職種の研修会と退院前カンファレンス勉強会、事例検討会、介護職レベルアップ講習など

が定着化し、次第に、関係者の顔の見える関係性が構築でき、多職種連携による地域包括ケアの質が高まってきている。

2) 南国市の取り組みを香美市・香南市に拡大普及する取り組みを側面的に支援

- ・香美郡医師会長と保健所長が協議し、南国市の取り組みを香美郡下の香美市・香南市に拡大普及する取り組みを開始

- ・保健所が調整して香美郡医師会の医師とケアマネの合同勉強会を企画。南国市における医師会主導の地域包括ケアの取り組みと一緒に勉強した。今年度中に、医師会と保健所と包括支援センターで構成する実行委員会を設置し、具体の取り組みを検討推進することとしている。

3) 1) 2) については、保健医療福祉推進会議で医師会から報告され関係者で情報共有をしている